

館長室へようこそ⑬

返却は期日までに

図書館長 古川 聡

ある土曜日、自宅でコーヒーを飲みながら庭を眺めていたところ、携帯にメールが届いた。差出人は「国立音楽大学附属図書館」とある。仕事のことかと思いきや、開けてみると何と資料の督促メールであった。館長たる者、何をしているのか。学生の頃から考えても、図書館から督促状を受け取ったのはこれが初めてである。「誠に申し訳ありません」の一言に尽きる。

実は、前日の午後、必要な資料があったので自ら書庫に入って探して借り出し、コピーをとってすぐに返却するつもりでいた。だが、忙しさに紛れて机の上に置いたまま帰宅してしまっただけであった。とはいえ、これは理由にならない。当日貸し出しのみの学術雑誌であり、他に利用したい方がいたとしたらお詫びするしかない。もちろん月曜日の朝一番にすぐに返却をした。

私たちの生活の中には、さまざまな締め切り日がある。それを確実に実行することが必要で、心理学では展望的記憶と呼ばれる。展望的記憶が実行できないと、あてにならない人、信用できない人というレッテルを貼られてしまう。そうになると、なかなかイメージの回復は難しい。

図書館では資料の延滞や紛失が大きな問題で、その解決が求められている。学納金をもとに資料を購入し運用しており、利用者が使いたい時に使えることが前提である。OPACで調べて必要な資料にようやくたどりついたものの、それがオレンジ色で「貸出中」となっていると、落胆を感じ、わずかながら怒りのようなものを抱くことさえある。もちろん必要な資料はおおいに借りてもらい、それを活用してくれることが図書館としての最大の望みではあるが、利用が終わったら即座に返却してほしいというのも事実である。皆さん、くれぐれも返却日には遅れないように。

図書館のら・ご・き

- 4月は異動の季節。図書館でも新たな職員を迎え、新年度をスタートしました。
どうぞよろしくお願いいたします!
- 自由閲覧室の棚に置く図書も、毎年少しずつ増えてきています。パソコンを使うついでに、本の背表紙を眺め、ページを開いてみてください。みなさんの勉強に役に立つ本や、心を打つ本が見つかるかもしれませんよ。

